

調 査 の 概 要

- 1 この調査は昭和 32 年から住民基本台帳法(昭和 32 年から昭和 42 年までは住民登録法)、住民基本台帳等人口調査要綱及び同要領に基づき、区市町村長から世帯数、人口及び年齢構成を毎年1月1日現在で報告を受け集計しているものである。
- 2 調査項目は、住民基本台帳に記載されている区市町村ごとの世帯数、男女別人口、町丁(字)別及び年齢別人口である。
- 3 調査対象としての人口・世帯数とは、日本国籍を有し東京都内の区市町村に住所を定めている者として、当該区市町村の住民基本台帳に記載されている者の数及びそれらの者が構成している世帯の数である。
- 4 町丁(字)制を施行していない地域等については、通常用いている区画(自治会、町会名称等)によることとしたが、利島村、神津島村、御蔵島村及び青ヶ島村については、村を 1 つの区画とした。

利 用 上 の 注 意

- 1 統計表及び図表の数値は、特にことわり書きのない限り、各年 1 月 1 日現在の数値を示す。
- 2 統計表において「 - 」印は皆無又は該当数字のないことを、「 」印は減を、「0.00」は表章単位未満を示す。
- 3 統計表において構成比を示す数値は、四捨五入してあるため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。
- 4 参考表において市部、町村部の区域は現在の区域に組み替えて表章している。
- 5 町丁名の掲載順は区市町村からの報告に基づいている。

この報告書についての照会は

総務局統計部人口統計課人口動態統計係

電話 5321-1111(代)

内線 25-511・512

5388-2531 (ダイヤルイン)

結果の概要

1 1月1日現在人口及び増減率

平成19年1月1日現在における東京都の住民基本台帳による人口は12,339,259人で、前年に比べ92,235人(0.75%)の増加となった。

調査開始(昭和32年)以来の推移をみると、昭和62年までおおむね増加傾向にあったが、翌年以降は減少を続け、平成9年に増加に転じた。以後、11年連続の増加となり、平成19年は過去最高となった。

人口を男女別にみると、男性6,130,991人、女性6,208,268人となり、前年に比べ男性は43,763人(0.72%)、女性は48,472人(0.79%)増加した。性比(女性100人に対する男性の数)は98.8で前年と変わらず、平成8年以来、男性が女性より少ない傾向が続いている。

地域別にみると、区部は8,318,841人で、前年に比べ71,031人(0.86%)増加し、11年連続の増加となった。市部は3,931,755人で、21,523人(0.55%)増加し、調査開始以来、増加を続けている。一方、町村部は88,663人で319人(0.36%)の減少となった。

(表1、表2、図1、統計表第1表、参考表第3表)

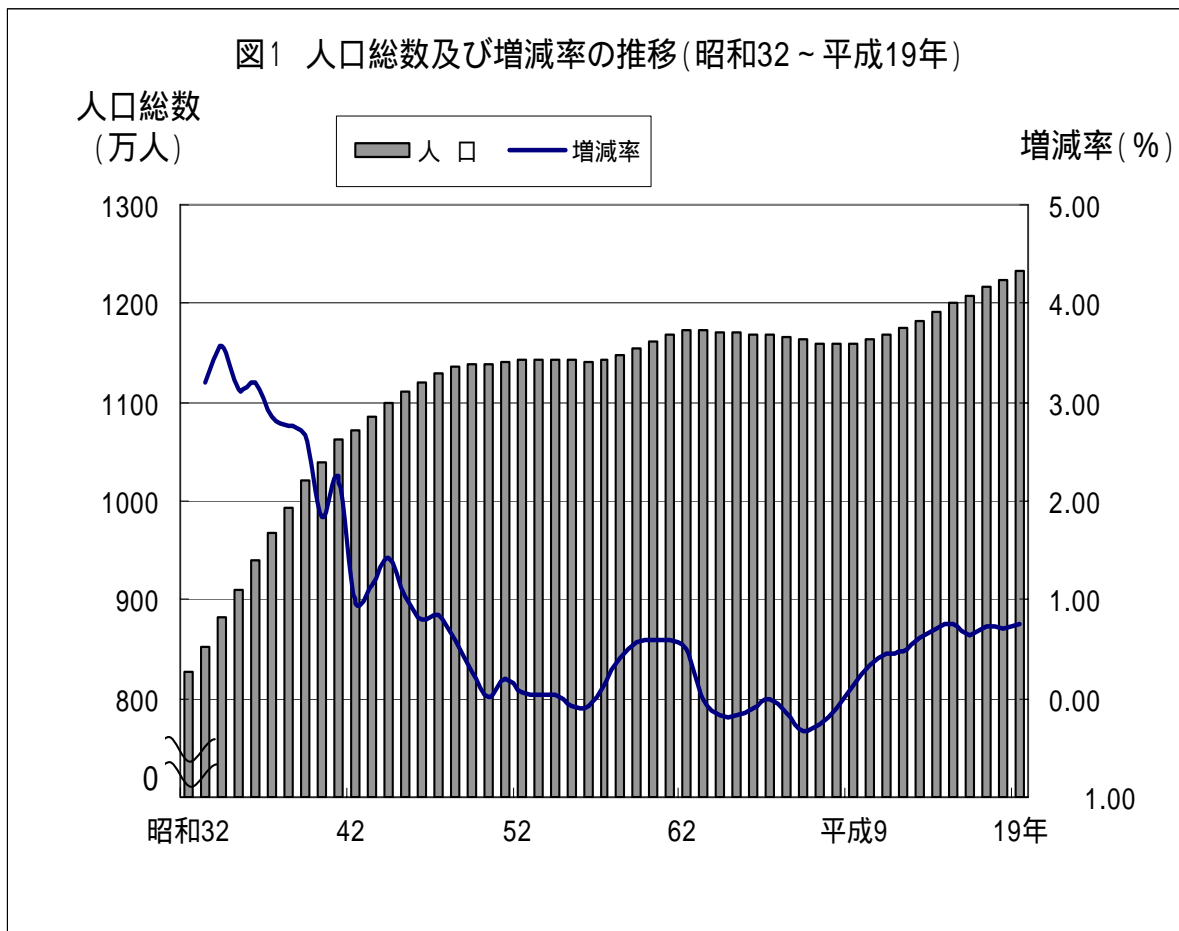


表1 人口及び男女別人口の推移(平成9～19年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	総数			男			女			性比
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	
平成9年	11 602 642	14 916	0.13	5 793 911	2 082	0.04	5 808 731	12 834	0.22	99.7
10	11 641 308	38 666	0.33	5 808 485	14 574	0.25	5 832 823	24 092	0.41	99.6
11	11 694 934	53 626	0.46	5 832 504	24 019	0.41	5 862 430	29 607	0.51	99.5
12	11 750 351	55 417	0.47	5 857 130	24 626	0.42	5 893,221	30 791	0.53	99.4
13	11 823 029	72 678	0.62	5 892 229	35 099	0.60	5 930 800	37 579	0.64	99.3
14	11 907 350	84 321	0.71	5 932 231	40 002	0.68	5 975 119	44 319	0.75	99.3
15	11 996 211	88 861	0.75	5 973 910	41 679	0.70	6 022 301	47 182	0.79	99.2
16	12 074 598	78 387	0.65	6 008 358	34 448	0.58	6 066 240	43 939	0.73	99.0
17	12 161 029	86 431	0.72	6 047 173	38 815	0.65	6 113 856	47 616	0.78	98.9
18	12 247 024	85 995	0.71	6 087 228	40 055	0.66	6 159 796	45 940	0.75	98.8
19年	12 339 259	92 235	0.75	6 130 991	43 763	0.72	6 208 268	48 472	0.79	98.8

(注1) 増減数(人) = 当該年の人口 - 前年の人口

(注2) 増減率(%) = (当該年の人口 - 前年の人口) ÷ 前年の人口 × 100

表2 地域別人口の推移(平成9～19年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	区 部			市 部			町 村 部		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成9年	7 846 823	336	0.00	3 662 487	14 797	0.41	93 332	217	0.23
10	7 863 301	16 478	0.21	3 685 048	22 561	0.62	92 959	373	0.40
11	7 892 267	28 966	0.37	3 709 849	24 801	0.67	92 818	141	0.15
12	7 921 476	29 209	0.37	3 736 208	26 359	0.71	92 667	151	0.16
13	7 967 602	46 126	0.58	3 762 984	26 776	0.72	92 443	224	0.24
14	8 023 202	55 600	0.70	3 792 262	29 278	0.78	91 886	557	0.60
15	8 081 959	58 757	0.73	3 822 699	30 437	0.80	91 553	333	0.36
16	8 129 801	47 842	0.59	3 854 036	31 337	0.82	90 761	792	0.87
17	8 183 907	54 106	0.67	3 887 161	33 125	0.86	89 961	800	0.88
18	8 247 810	63 903	0.78	3 910 232	23 071	0.59	88 982	979	1.09
19年	8 318 841	71 031	0.86	3 931 755	21 523	0.55	88 663	319	0.36

2 平均年齢

平均年齢は、42.97歳と前年に比べ0.23歳高くなっている。男女を比較すると、男性41.62歳、女性44.31歳と女性の方が2.69歳高くなっている。

地域別にみると町村部の46.45歳が最も高く、次いで区部(43.25歳)、市部(42.30歳)の順となっており、いずれの地域でも上昇している。

また、20年前の昭和62年からの推移をみると、すべての地域で男女共に平均年齢が上昇しており、20年間で男性は6.84歳、女性は7.12歳上昇した。

区市町村別にみると、檜原村の54.67歳が最も高く、次いで三宅村(54.23歳)、奥多摩町(53.84歳)、新島村(50.41歳)の順となっている。最も低いのは小笠原村の39.39歳で、次いで青ヶ島村(39.97歳)、稲城市(40.17歳)、の順となっている。(表3、表4)

表3 区市町村別平均年齢及び年齢(3区分)別人口の構成比

平成19年1月1日現在

地 域	平均年齢(歳)	年齢(3区分)別人口の構成比(%)			地 域	平均年齢(歳)	年齢(3区分)別人口の構成比(%)		
		0～14歳	15～64歳	65歳以上			0～14歳	15～64歳	65歳以上
総 数	42.97	11.84	69.26	18.90					
区 部	43.25	11.17	69.74	19.10	福 生 市	42.37	13.33	68.95	17.72
千代田区	43.63	10.90	69.51	19.59	狛 江 市	43.15	11.30	69.00	19.70
中央区	42.49	10.35	73.06	16.59	東 大 和 市	42.43	14.20	66.86	18.94
港区	43.20	10.25	72.04	17.71	清 瀬 市	43.68	13.46	64.82	21.72
新宿区	44.14	8.55	71.65	19.80	東 久 留 米 市	43.34	13.45	66.14	20.41
文京区	43.55	10.35	70.21	19.45	武 蔵 村 山 市	41.63	15.32	66.87	17.82
台東区	46.38	9.55	66.91	23.54	多 摩 市	42.50	12.14	70.66	17.20
墨田区	44.54	10.79	68.28	20.93	稲 城 市	40.17	15.77	69.55	14.67
江東区	43.35	11.53	70.09	18.38	羽 村 市	41.26	14.95	68.23	16.82
品川区	43.76	9.81	71.14	19.05	あ き る 野 市	43.32	14.45	65.25	20.29
目黒区	42.98	10.05	71.86	18.09	西 東 京 市	42.59	13.08	67.80	19.12
大田区	43.44	11.43	69.46	19.12	町 村 部	46.45	12.40	63.27	24.33
世田谷区	42.30	10.92	71.58	17.50	郡 部	45.29	12.59	65.01	22.41
渋谷区	43.51	8.47	73.30	18.22	瑞 穂 町	41.94	14.93	67.76	17.31
中野区	43.49	8.69	72.10	19.22	日 の 出 町	47.02	10.63	65.84	23.53
杉並区	43.13	9.48	71.91	18.61	檜 原 村	54.67	7.86	51.57	40.56
豊島区	44.20	8.42	71.56	20.02	奥 多 摩 町	53.84	7.51	55.24	37.25
北区	45.87	9.61	67.08	23.32	島 部	48.83	12.01	59.70	28.28
荒川区	45.21	10.90	66.70	22.39	大 島 支 庁	48.97	11.85	59.29	28.86
板橋区	43.20	11.39	69.54	19.07	大 島 町	49.18	11.17	59.82	29.01
練馬区	42.14	12.98	68.65	18.38	利 島 村	48.04	9.86	65.65	24.49
足立区	43.51	12.96	66.61	20.43	新 島 村	50.41	12.04	56.37	31.60
葛飾区	43.77	12.55	66.84	20.61	神 津 島 村	46.01	14.76	60.51	24.73
江戸川区	40.80	14.89	68.76	16.35	三 宅 支 庁	53.23	6.76	58.01	35.23
市 部	42.30	13.26	68.37	18.37	三 宅 村	54.23	6.10	56.90	37.00
八王子市	42.16	13.37	68.55	18.08	御 蔵 島 村	42.36	13.96	70.19	15.85
立川市	42.10	13.19	68.81	18.00	八 丈 支 庁	49.57	12.79	57.71	29.50
武蔵野市	42.95	10.67	70.55	18.78	八 丈 町	49.78	12.61	57.51	29.87
三鷹市	42.14	12.02	70.12	17.85	青 ヶ 島 村	39.97	20.83	66.67	12.50
青梅市	42.90	14.04	67.21	18.75	小 笠 原 支 庁	39.39	17.02	71.94	11.04
府中市	41.22	13.93	69.21	16.87	小 笠 原 村	39.39	17.02	71.94	11.04
昭島市	42.58	13.41	68.25	18.34					
調布市	41.85	12.37	70.00	17.63					
町田市	42.51	13.81	67.39	18.80					
小金井市	42.02	12.29	69.99	17.73					
小平市	41.98	13.74	67.65	18.61					
日野市	42.28	13.32	68.01	18.67					
東村山市	43.31	13.42	66.00	20.58					
国分寺市	41.96	12.43	69.69	17.87					
国立市	42.11	12.98	69.47	17.55					

(注1) 平均年齢の求め方は、各年齢(当年と翌年の中央値)ごとに人口を乗じた値を合計し、人口総数(年齢不詳を除く)で除す。

$$\text{平均年齢(歳)} = (\text{年齢} \times \text{人口}) \div \text{人口総数} + 0.5$$

(注2) 年齢(3区分)別人口の構成比(%) = 各年齢区分別人口 ÷ 人口総数(年齢不詳を除く) × 100

表4 地域、男女別平均年齢の推移(昭和62、平成3、9、14～19年)

各年1月1日現在 (単位 歳)

地域・男女	昭和62年	平成3年	9年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	
総数	総数	35.98	37.66	40.17	41.69	41.95	42.22	42.48	42.74	42.97
	区部	36.63	38.34	40.81	42.17	42.39	42.63	42.86	43.07	43.25
	市部	34.39	36.11	38.76	40.61	40.95	41.28	41.61	41.96	42.30
	町村部	35.82	37.45	41.77	44.22	44.63	45.13	45.58	46.07	46.45
	郡部	34.64	36.34	40.40	42.99	43.44	43.95	44.42	44.91	45.29
	島部	40.23	41.95	44.38	46.63	46.99	47.50	47.91	48.43	48.83
男	総数	34.78	36.40	38.86	40.34	40.60	40.87	41.13	41.39	41.62
	区部	35.33	36.99	39.44	40.77	41.00	41.24	41.47	41.68	41.87
	市部	33.45	35.04	37.61	39.38	39.70	40.03	40.36	40.70	41.02
	町村部	34.71	36.31	40.34	42.57	42.97	43.49	43.93	44.39	44.75
	郡部	33.66	35.32	39.06	41.36	41.80	42.35	42.81	43.27	43.64
	島部	38.74	40.34	42.81	44.95	45.31	45.80	46.20	46.68	47.02
女	総数	37.19	38.94	41.48	43.02	43.29	43.56	43.82	44.07	44.31
	区部	37.92	39.68	42.16	43.53	43.76	44.00	44.23	44.44	44.61
	市部	35.36	37.22	39.94	41.86	42.20	42.55	42.86	43.22	43.57
	町村部	36.96	38.64	43.24	45.90	46.32	46.79	47.26	47.78	48.18
	郡部	35.66	37.41	41.79	44.67	45.12	45.57	46.07	46.58	46.96
	島部	41.72	43.59	45.97	48.34	48.70	49.22	49.65	50.24	50.69

3 年齢別人口

(1) 年齢別人口構成

平成19年1月1日現在の東京都の人口を、年齢構造を視覚的に表す人口ピラミッドで見ると、第1次ベビーブーム世代の57～59歳と、第2次ベビーブーム世代を含む33～39歳を中心とした二つの膨らみを持つ「ひょうたん型」に近い形となっている。

20年前の昭和62年と比べると、25歳以下の人口が男女ともに減少し、特に12歳から25歳までの減少が大きくなっている。逆に第1次ベビーブーム世代の老齢化に伴って、56歳以上の人口が大幅に増加しており、今後も少子高齢化の人口構造が一層進んでいくものと推測される。

(14頁 図6-1、15頁 図6-2)

(2) 5歳階級別人口

平成19年1月1日現在の東京都の人口を5歳階級別にみると、第2次ベビーブーム世代を含む30～34歳が1,123,024人(9.10%)で最も多く、次いで35～39歳の1,102,442人(8.93%)、25～29歳の980,463人(7.95%)、55～59歳の956,098人(7.75%)の順となっている。

(表5)

地域別構成

5歳階級別人口を地域別にみると、区部は30～34歳の788,702人、35～39歳の760,702人、25～29歳の693,244人、55～59歳の639,589人の順となっている。

市部は35～39歳の336,003人、30～34歳の328,624人、55～59歳の307,804人、25～29歳の282,597人の順となっている。

町村部は 55～59 歳の 8,705 人が最も多く、次いで 60～64 歳の 6,623 人、50～54 歳の 6,272 人の順となっている。(表 5・図 2)

性比

5 歳階級別人口による性比をみると、40～44 歳が 110.6 で最も高く、次いで 25～29 歳の 108.8、35～39 歳の 108.2 の順となっている。また、高齢になるにしたがって性比は低くなる傾向にあり、90 歳以上では 33.1 と女性が男性の約 3 倍となっている。

20 年前の昭和 62 年では性比が最も高いのは 20～24 歳で 121.2、10 年前の平成 9 年では 30～34 歳で 114.9 となっている。これをみると、この世代(平成 19 年 1 月 1 日現在 40～44 歳)において特別に性比が高くなっていることが読みとれる。(表 6)

表 5 地域、年齢(5 歳階級)別人口 平成 19 年 1 月 1 日 (単位 人、%)

年 齢 (歳)	総 数	区 部	市 部	町村部	構 成 比			
					総 数	区 部	市 部	町村部
総 数	12 339 259	8 318 841	3 931 755	88 663	100.00	100.00	100.00	100.00
0～4 歳	489 955	317 836	168 734	3 385	3.97	3.82	4.29	3.82
5～9	493 203	311 626	177 874	3 703	4.00	3.75	4.52	4.18
10～14	478 229	299 540	174 785	3 904	3.88	3.60	4.45	4.40
15～19	504 931	315 135	185 561	4 235	4.09	3.79	4.72	4.78
20～24	769 336	508 380	256 710	4 246	6.23	6.11	6.53	4.79
25～29	980 463	693 244	282 597	4 622	7.95	8.33	7.19	5.21
30～34	1 123 024	788 702	328 624	5 698	9.10	9.48	8.36	6.43
35～39	1 102 442	760 702	336 003	5 737	8.93	9.14	8.55	6.47
40～44	888 927	607 044	276 940	4 943	7.20	7.30	7.04	5.58
45～49	743 482	503 597	234 871	5 014	6.03	6.05	5.97	5.66
50～54	721 326	482 004	233 050	6 272	5.85	5.79	5.93	7.07
55～59	956 098	639 589	307 804	8 705	7.75	7.69	7.83	9.82
60～64	755 531	502 850	246 058	6 623	6.12	6.04	6.26	7.47
65～69	707 266	471 711	229 759	5 796	5.73	5.67	5.84	6.54
70～74	622 232	422 688	194 320	5 224	5.04	5.08	4.94	5.89
75～79	455 256	312 068	138 979	4 209	3.69	3.75	3.53	4.75
80～84	297 810	208 048	86 614	3 148	2.41	2.50	2.20	3.55
85～89	158 289	110 821	45 514	1 954	1.28	1.33	1.16	2.20
90 歳以上	91 452	63 253	26 954	1 245	0.74	0.76	0.69	1.40
年齢不詳者	7	3	4	-	0.00	0.00	0.00	-

(注) 構成比(%) = 各年齢別人口 ÷ 人口総数 × 100

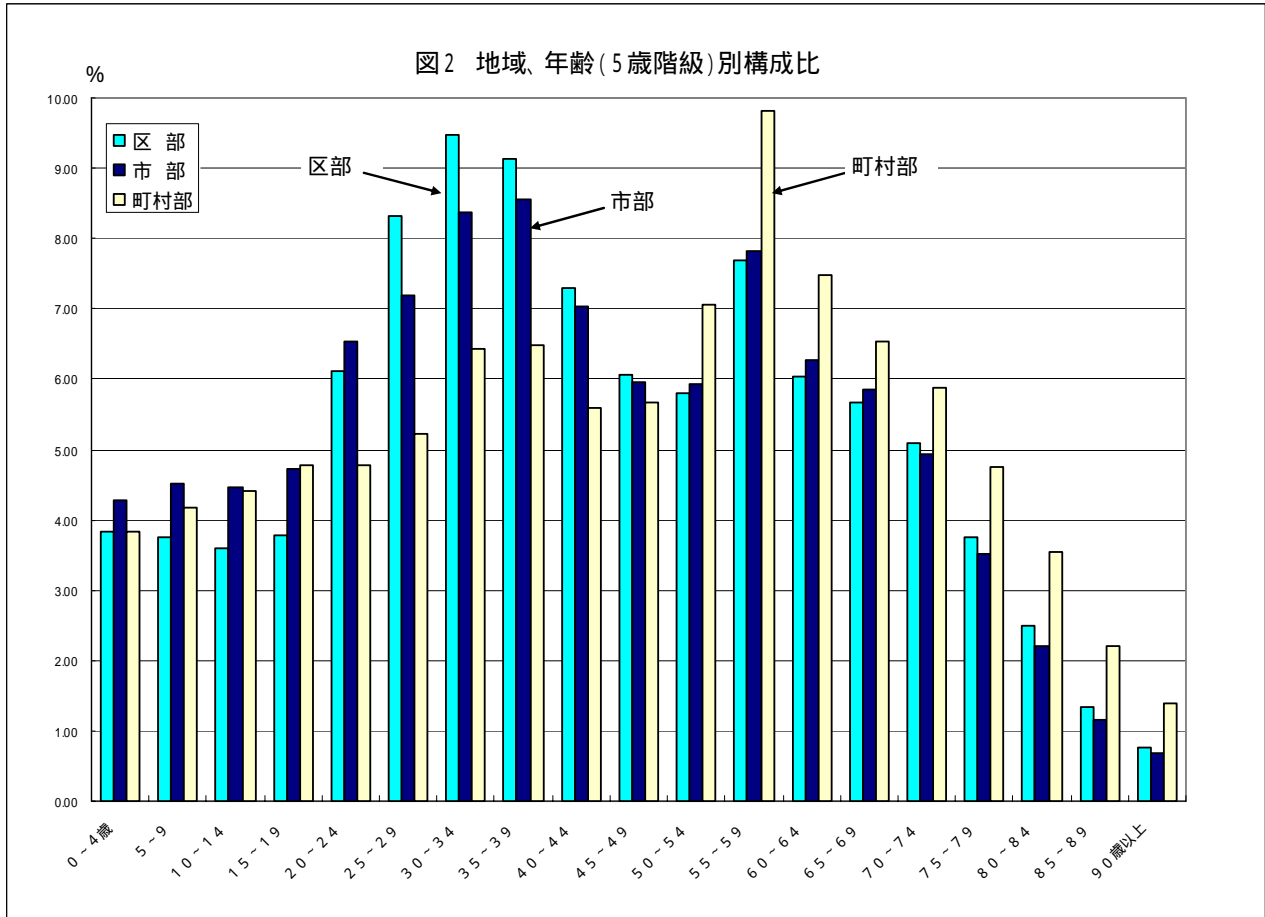


表6 年齢(5歳階級)別、男女別人口及び性比の推移(昭和62、平成9、19年)

各年1月1日現在 (単位 人、%)

年齢	昭和62年			平成9年			19年			性比(女=100人)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	昭和62年	平成9年	19年
総数	11 740 896	5 905 397	5 835 499	11 602 642	5 793 911	5 808 731	12 339 259	6 130 991	6 208 268	101.2	99.7	98.8
0~4	600 622	307 124	293 498	469 572	240 443	229 129	489 955	251 236	238 719	104.6	104.9	105.2
5~9	634 060	324 385	309 675	470 732	241 020	229 712	493 203	252 806	240 397	104.8	104.9	105.2
10~14	793 194	406 802	386 392	528 469	270 311	258 158	478 229	244 413	233 816	105.3	104.7	104.5
15~19	938 849	487 181	451 668	646 277	331 081	315 196	504 931	257 655	247 276	107.9	105.0	104.2
20~24	1 105 194	605 448	499 746	1 054 731	551 705	503 026	769 336	396 677	372 659	121.2	109.7	106.4
25~29	929 366	503 766	425 600	1 120 759	594 761	525 998	980 463	510 898	469 565	118.4	113.1	108.8
30~34	860 247	458 743	401 504	895 872	479 031	416 841	1 123 024	581 608	541 416	114.3	114.9	107.4
35~39	1 087 347	566 462	520 885	744 818	391 749	353 069	1 102 442	572 892	529 550	108.7	111.0	108.2
40~44	870 991	436 032	434 959	733 442	379 791	353 651	888 927	466 908	422 019	100.2	107.4	110.6
45~49	853 746	417 823	435 923	999 692	510 314	489 378	743 482	385 591	357 891	95.8	104.3	107.7
50~54	805 225	394 589	410 636	817 928	406 621	411 307	721 326	369 427	351 899	96.1	98.9	105.0
55~59	654 906	314 096	340 810	788 575	384 280	404 295	956 098	484 139	471 959	92.2	95.0	102.6
60~64	505 979	228 971	277 008	719 331	345 771	373 560	755 531	368 305	387 226	82.7	92.6	95.1
65~69	374 753	157 093	217 660	566 144	261 246	304 898	707 266	332 675	374 591	72.2	85.7	88.8
70~74	307 826	132 611	175 215	421 321	180 256	241 065	622 232	282 388	339 844	75.7	74.8	83.1
75~79	223 360	91 473	131 887	284 613	108 211	176 402	455 256	191 926	263 330	69.4	61.3	72.9
80~84	123 085	48 321	74 764	195 372	72 187	123 185	297 810	110 705	187 105	64.6	58.6	59.2
85~89	55 761	19 486	36 275	103 564	33 694	69 870	158 289	47 976	110 313	53.7	48.2	43.5
90歳以上	16 359	4 977	11 382	41 411	11 429	29 982	91 452	22 762	68 690	43.7	38.1	33.1

(注) 総数には年齢不詳者を含む。

4 年齢(3区分)別人口

(1) 年齢(3区分)別人口の推移

人口を年齢3区分別に見ると、平成19年の年少人口(0～14歳)は、1,461,387人で、前年に比べ9,471人(0.65%)増加した。人口に占める割合は11.84%で、10年前の平成9年(12.66%)に比べ0.82ポイント減少している。

平成19年の生産年齢人口(15～64歳)は8,545,560人で、前年に比べ259人(0.00%)減少し、平成13年以來の減少となった。人口に占める割合(69.26%)については平成5年から減少が続いており、10年前の平成9年(73.44%)に比べ4.18ポイントの減少となった。

平成19年の老年人口(65歳以上)は2,332,305人で、前年に比べ83,026人(3.69%)増加した。また、人口に占める割合は18.90%で、10年前の平成9年(13.90%)に比べ、5.00ポイント増加し、年齢三区分のうち老年人口の増加は顕著である。

また、20年前の昭和62年の構成比と比べると、年少人口は6.12ポイント、生産年齢人口は3.69ポイントそれぞれ減少しており、老年人口は9.80ポイント増加した。

(表7-1、7-2、図3)

表7-1 年齢(3区分)別人口の推移(平成9～19年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	年少人口(0～14歳)			生産年齢人口(15～64歳)			老年人口(65歳以上)		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成9年	1 468 773	23 059	1.55	8 521 425	28 522	0.33	1 612 425	66 497	4.30
10	1 452 699	16 074	1.09	8 503 421	18 004	0.21	1 685 171	72 746	4.51
11	1 440 642	12 057	0.83	8 496 695	6 726	0.08	1 757 581	72 410	4.30
12	1 430 154	10 488	0.73	8 497 436	741	0.01	1 822 748	65 167	3.71
13	1 427 229	2 925	0.20	8 491 001	6 435	0.08	1 904 789	82 041	4.50
14	1 427 848	619	0.04	8 500 167	9 166	0.11	1 979 325	74 536	3.91
15	1 432 509	4 661	0.33	8 507 104	6 937	0.08	2 056 589	77 264	3.90
16	1 435 292	2 783	0.19	8 523 570	16 466	0.19	2 115 728	59 139	2.88
17	1 445 820	10 528	0.73	8 539 039	15 469	0.18	2 176 162	60 434	2.86
18	1 451 916	6 096	0.42	8 545 819	6 780	0.08	2 249 279	73 117	3.36
19年	1 461 387	9 471	0.65	8 545 560	259	0.00	2 332 305	83 026	3.69

年次	(再掲) 老年人口のうち70歳以上			(再掲) 老年人口のうち75歳以上		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成9年	1 046 281	47 810	4.79	624 960	26 967	4.51
10	1 094 464	48 183	4.61	651 159	26 199	4.19
11	1 145 862	51 398	4.70	679 437	28 278	4.34
12	1 193 987	48 125	4.20	709 247	29 810	4.39
13	1 247 391	53 404	4.47	748 924	39 677	5.59
14	1 304 631	57 240	4.59	788 134	39 210	5.24
15	1 369 146	64 515	4.95	829 013	40 879	5.19
16	1 432 319	63 173	4.61	871 842	42 829	5.17
17	1 491 554	59 235	4.14	914 392	42 550	4.88
18年	1 561 921	70 367	4.72	957 123	42 731	4.67
19年	1 625 039	63 118	4.04	1 002 807	45 684	4.77

(注1) 増減数(人) = 当該年の区分別人口 - 前年の区分別人口

(注2) 増減率(%) = (当該年の区分別人口 - 前年の区分別人口) ÷ 前年の区分別人口 × 100

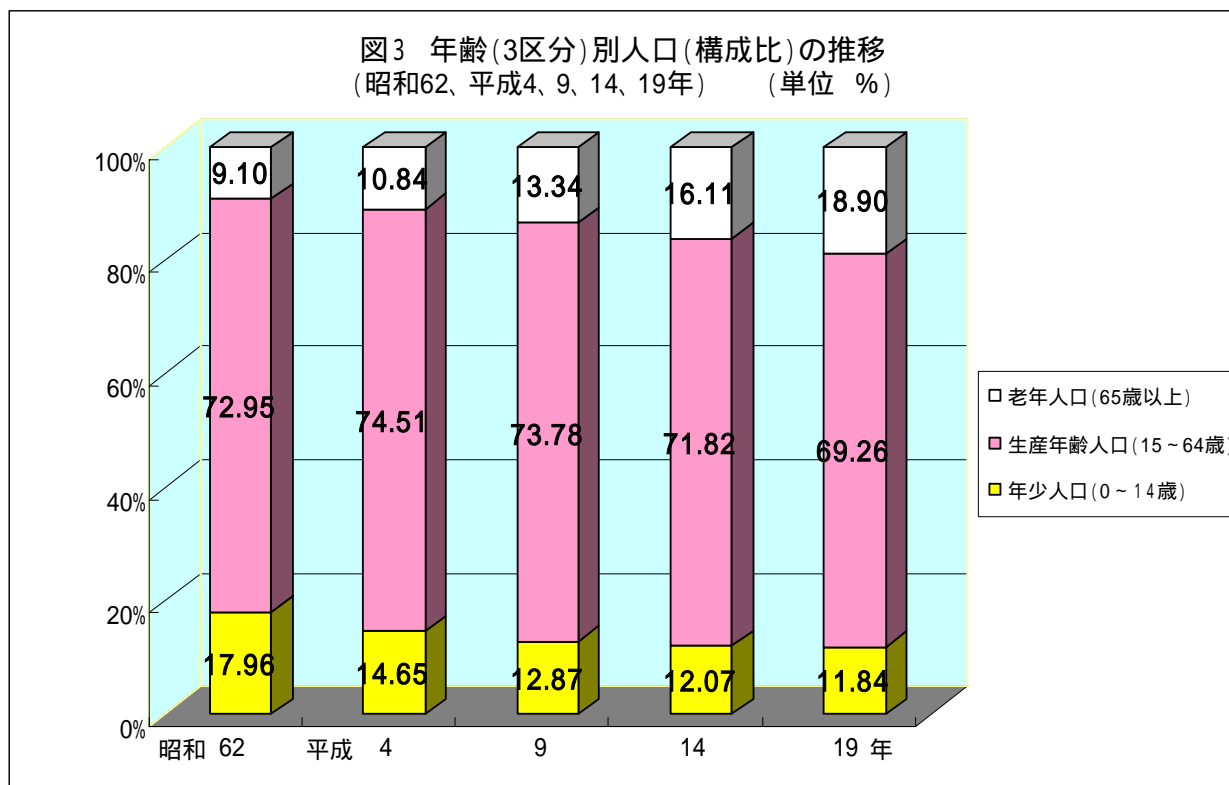
表7-2 年齢(3区分)別人口及び構成比の推移(平成9~19年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)		(再掲)老年人口のうち 70歳以上		(再掲)老年人口のうち 75歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
平成 9	1 468 773	12.66	8 521 425	73.44	1 612 425	13.90	1 046 281	9.02	624 960	5.39
10	1 452 699	12.48	8 503 421	73.05	1 685 171	14.48	1 094 464	9.40	651 159	5.59
11	1 440 642	12.32	8 496 695	72.65	1 757 581	15.03	1 145 862	9.80	679 437	5.81
12	1 430 154	12.17	8 497 436	72.32	1 822 748	15.51	1 193 987	10.16	709 247	6.04
13	1 427 229	12.07	8 491 001	71.82	1 904 789	16.11	1 247 391	10.55	748 924	6.33
14	1 427 848	11.99	8 500 167	71.39	1 979 325	16.62	1 304 631	10.96	788 134	6.62
15	1 432 509	11.94	8 507 104	70.91	2 056 589	17.14	1 369 146	11.41	829 013	6.91
16	1 435 292	11.89	8 523 570	70.59	2 115 728	17.52	1 432 319	11.86	871 842	7.22
17	1 445 820	11.89	8 539 039	70.22	2 176 162	17.89	1 491 554	12.27	914 392	7.52
18	1 451 916	11.86	8 545 819	69.78	2 249 279	18.37	1 561 921	12.75	957 123	7.82
19年	1 461 387	11.84	8 545 560	69.26	2 332 305	18.90	1 625 039	13.17	1 002 807	8.13

(注)構成比(%) = 各区分別人口 ÷ 人口総数 × 100

なお、平成 19 年の老年人口のうちの 70 歳以上は、1,625,039 人で前年に比べ 63,118 人(4.04%)の増加で人口に占める割合は 13.17%となり、また、75歳以上は1,002,807人で前年に比べ 45,684 人(4.77%)の増加で人口に占める割合は 8.13%となっている。

(表 7-1、表 7-2、参考表第 7 表、図 3)



(2) 地域別比較

平成 19 年 1 月 1 日現在の年齢(3 区分)別人口の構成比を地域別にみると、年少人口の割合は、市部(13.26%)が最も高く、次いで町村部(12.40%)、区部(11.17%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、区部(69.74%)が最も高く、次いで市部(68.37%)、町村部(63.27%)の順となっている。

老年人口の割合は、町村部(24.33%)が最も高く、次いで区部(19.10%)、市部(18.37%)の順となっている。特に、島部の町村(28.28%)で高くなっている。(表 8)

表 8 地域別、年齢(3 区分)別人口 平成19年1月1日現在 (単位 人、%)

地 域	総 数		年 少 人 口 (0～14歳)		生 産 年 齢 人 口 (15～64歳)		老 年 人 口 (65歳以上)	
	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比
総 数	12 339 259	100.00	1 461 387	11.84	8 545 560	69.26	2 332 305	18.90
区 部	8 318 841	100.00	929 002	11.17	5 801 247	69.74	1 588 589	19.10
市 部	3 931 755	100.00	521 393	13.26	2 688 218	68.37	722 140	18.37
町 村 部	88 663	100.00	10 992	12.40	56 095	63.27	21 576	24.33
郡 部	59 585	100.00	7 499	12.59	38 734	65.01	5 766	9.68
島 部	29 078	100.00	3 493	12.01	17 361	59.70	8 224	28.28

(注)総数には年齢不詳者を含む。

(3) 区市町村別比較

平成 19 年 1 月 1 日現在の年齢(3 区分)別人口の構成比を区市町村別にみると、年少人口の割合は、青ヶ島村(20.83%)が最も高く、都全体(11.84%)に比べ 8.99 ポイント高くなっている。次いで小笠原村(17.02%)、稲城市(15.77%)の順となっている。最も低いのは三宅村(6.10%)で、次いで奥多摩町(7.51%)、檜原村(7.86%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、渋谷区(73.30%)が最も高く、都全体(69.26%)に比べ 4.04 ポイント高くなっている。次いで中央区(73.06%)、中野区(72.10%)の順となっている。最も低いのは檜原村(51.57%)で、次いで奥多摩町(55.24%)、新島村(56.37%)の順となっている。

老年人口の割合は、檜原村(40.56%)が最も高く、都全体(18.90%)に比べ 21.66 ポイント高くなっている。次いで奥多摩町(37.25%)、三宅村(37.00%)の順となっている。

最も低いのは小笠原村(11.04%)で、次いで青ヶ島村(12.50%)、稲城市(14.67%)の順となっている。(4 頁 表 3)

(4) 全国との比較

平成 19 年 1 月 1 日現在の東京都と平成 18 年 3 月 31 日現在の全国の人口を比較してみると、東京都は約 1,234 万人、全国は約 1 億 2,706 万人となっている。

東京都が全国に占める割合は 9.71 % となっている。年齢(3 区分)別構成比をみると、東京都の年少人口は 11.84 % で全国より低く、生産年齢人口は 69.26 % で、全国より高く、老年人口は 18.90 % で全国より低くなっている。(表 9、図 4-1、図 4-2)

表9 年齢(3区分)別人口

(単位 人、%)

区 分	都 *1		全国(参考) *2	
	人 口	構成比	人 口	構成比
総 数	12 339 259	100.00	127 055 010	100.00
年少人口(0～14歳)	1 461 387	11.84	17 533 066	13.91
生産年齢人口(15～64歳)	8 545 560	69.26	83 729 754	65.90
老年人口(65歳以上)	2 332 305	18.90	25 792 190	19.72

*1:本調査(平成19年1月1日現在)。総数には年齢不詳を含む。

*2:総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」(平成18年3月31日現在)

全国人口の年齢別数値は国勢調査の結果数値(毎5年周期の10月1日)または各年3月31日の数値しか公表されていないため、直近の数値として、総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」(平成18年3月31日現在)の数値を使用した。総数には年齢不詳を含む。

図4-1 都の構成比

(平成19年1月1日現在)

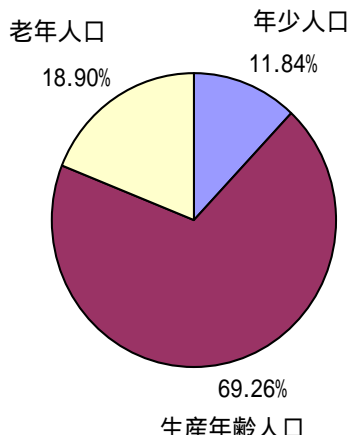
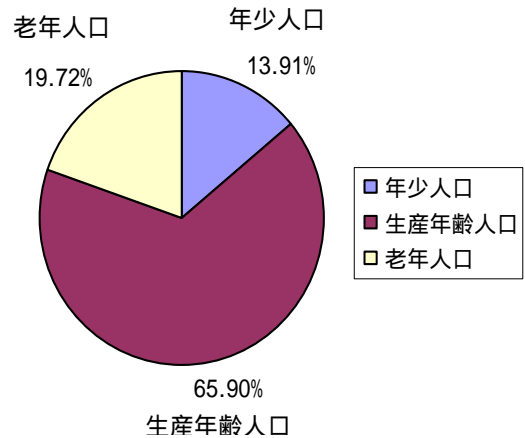


図4-2 全国の構成比

(平成18年3月31日現在)



5 年齢構造指数

平成19年の年少人口指数(年少人口の生産年齢人口に対する比率)は17.1で、前年とほぼ同じ値となった。一方、老年人口指数(老年人口の生産年齢人口に対する比率)は、平成19年は27.3となり前年に比べ1.0ポイント上昇した。昭和32年からの年齢構造指数の推移を見ると、平成7年まで老年人口指数が年少人口指数を下回っていたが、平成8年に逆転し、以後、老年人口指数の上昇が続いている。

従属人口指数は、前年より1.1ポイント上昇し44.4となった。また、老年化指数(老年人口の年少人口に対する比率)は、平成8年に100を超え、平成19年は159.6となった。昭和62年(20年前)の老年化指数54.3と比べると約3倍になった。(表10、図5、参考表第7表)

(注)年齢構造指数とは、次の指数の総称である。(人口学用語)

$$\text{年少人口指数} = (\text{年少人口}) \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = (\text{老年人口}) \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \{(\text{年少人口}) + (\text{老年人口})\} \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

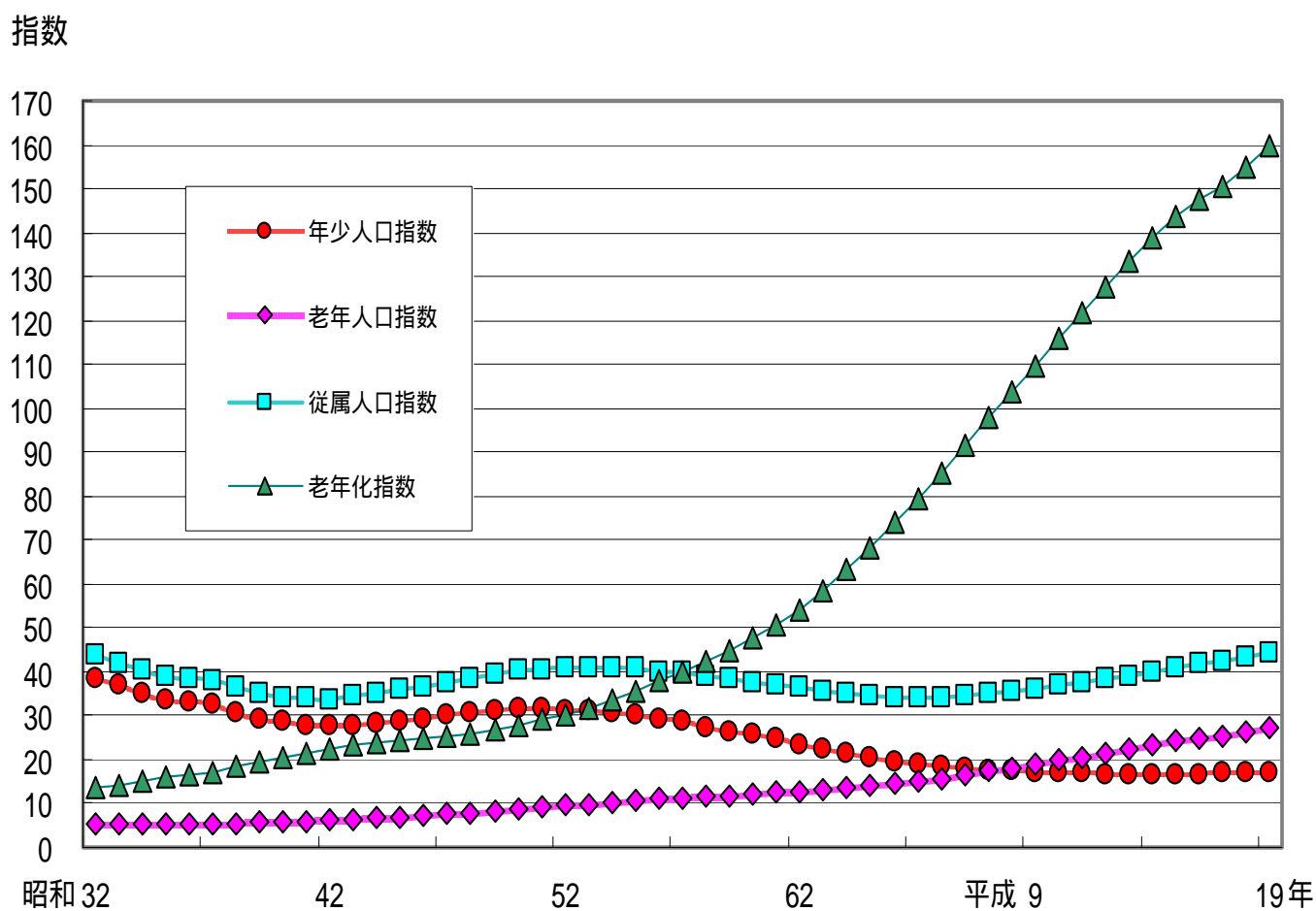
従属人口指数は、年少人口 + 老年人口の生産年齢人口に対する比率

$$\text{老年化指数} = (\text{老年人口}) \div (\text{年少人口}) \times 100$$

表 10 年齢構造指数の推移(昭和 62、平成 4、9、14～19年) 各年 1月 1日現在

年齢構造指数	昭和 62	平成 4	9	14	15	16	17	18年	19年
年少人口指数	23.5	19.0	17.1	16.8	16.8	16.8	16.9	17.0	17.1
老年人口指数	12.8	15.1	19.8	23.3	24.2	24.8	25.5	26.3	27.3
従属人口指数	36.3	34.2	36.9	40.1	41.0	41.7	42.4	43.3	44.4
老年化指数	54.3	79.6	116.0	138.6	143.6	147.4	150.5	154.9	159.6

図5 年齢構造指数等の推移 (昭和32～平成19年)



6 世帯数

平成 19 年 1 月 1 日現在における東京都の住民基本台帳による世帯総数は 6,029,100 世帯で、前年に比べ 96,210 世帯（1.62%）増加した。

調査開始時である昭和 32 年の 2,021,303 世帯から一貫して増加し、平成 19 年には約 3 倍となった。1 世帯当たりの人員（2.05 人）は、調査開始以来減少を続け、昭和 32 年（4.09 人）に比べ約半分の人員となっている。

地域別に前年と比べてみると、区部は 4,242,089 世帯で 72,475 世帯（1.74%）の増、市部は 1,748,077 世帯で 23,336 世帯（1.35%）の増、町村部は 38,934 世帯で 399 世帯（1.04%）の増とすべての地域で増加している。1 世帯当たりの人員は、町村部の 2.28 人が最も多く、次いで、市部（2.25 人）、区部（1.96 人）の順となっている。

区市町村別にみると、世田谷区が 425,295 世帯で最も多く、次いで、大田区（331,632 世帯）、練馬区（318,925 世帯）の順となっている。最も少ないのは青ヶ島村（113 世帯）で、次いで、御蔵島村（150 世帯）、利島村（166 世帯）の順となっている。

1 世帯当たりの人員は、あきる野市と瑞穂町が 2.58 人で最も多く、次いで日の出町の 2.54 人となっている。最も少ないのは三宅村（1.66 人）で、次いで渋谷区（1.69 人）、青ヶ島村（1.70 人）、新宿区（1.70 人）となっている。（表 11、表 12、統計表第 1 表、第 4 表、参考表第 8 表）

表 11 地域別世帯数の推移（平成 9～19 年） 各年 1 月 1 日現在 （単位 世帯、%）

年次	総数			区部			市部			町村部		
	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率
平成 9	5 166 041	62 500	1.22	3 642 018	40 660	1.13	1 488 332	21 236	1.45	35 691	604	1.72
10	5 239 545	73 504	1.42	3 690 179	48 161	1.32	1 513 242	24 910	1.67	36 124	433	1.21
11	5 324 604	85 059	1.62	3 745 344	55 165	1.49	1 542 626	29 384	1.94	36 634	510	1.41
12	5 401 662	77 058	1.45	3 797 774	52 430	1.40	1 566 810	24 184	1.57	37 078	444	1.21
13	5 489 639	87 977	1.63	3 859 532	61 758	1.63	1 592 610	25 800	1.65	37 497	419	1.13
14	5 585 847	96 208	1.75	3 927 099	67 567	1.75	1 620 901	28 291	1.78	37 847	350	0.93
15	5 679 978	94 131	1.69	3 993 731	66 632	1.70	1 648 139	27 238	1.68	38 108	261	0.69
16	5 760 580	80 602	1.42	4 047 216	53 485	1.34	1 675 128	26 989	1.64	38 236	128	0.34
17	5 842 829	82 249	1.43	4 103 468	56 252	1.39	1 701 054	25 926	1.55	38 307	71	0.19
18	5 932 890	90 061	1.54	4 169 614	66 146	1.61	1 724 741	23 687	1.39	38 535	228	0.60
19 年	6 029 100	96 210	1.62	4 242 089	72 475	1.74	1 748 077	23 336	1.35	38 934	399	1.04

（注 1）増減数（世帯）＝当該年の世帯数－前年の世帯数

（注 2）増減率（%）＝（当該年の世帯数－前年の世帯数）÷前年の世帯数×100

表 12 地域別 1 世帯当り人員の推移（昭和 62、平成 4、9、14～19 年）各年 1 月 1 日現在 （単位 人）

地域	昭和 62	平成 4	9	14	15	16	17	18	19 年
総数	2.48	2.36	2.25	2.13	2.11	2.10	2.08	2.06	2.05
区部	2.38	2.27	2.15	2.04	2.02	2.01	1.99	1.98	1.96
市部	2.76	2.59	2.46	2.34	2.32	2.30	2.29	2.27	2.25
町村部	3.03	2.83	2.62	2.43	2.40	2.37	2.35	2.31	2.28

図 6-1 東京都の人口の年齢構造(平成 19 年 1 月 1 日現在)

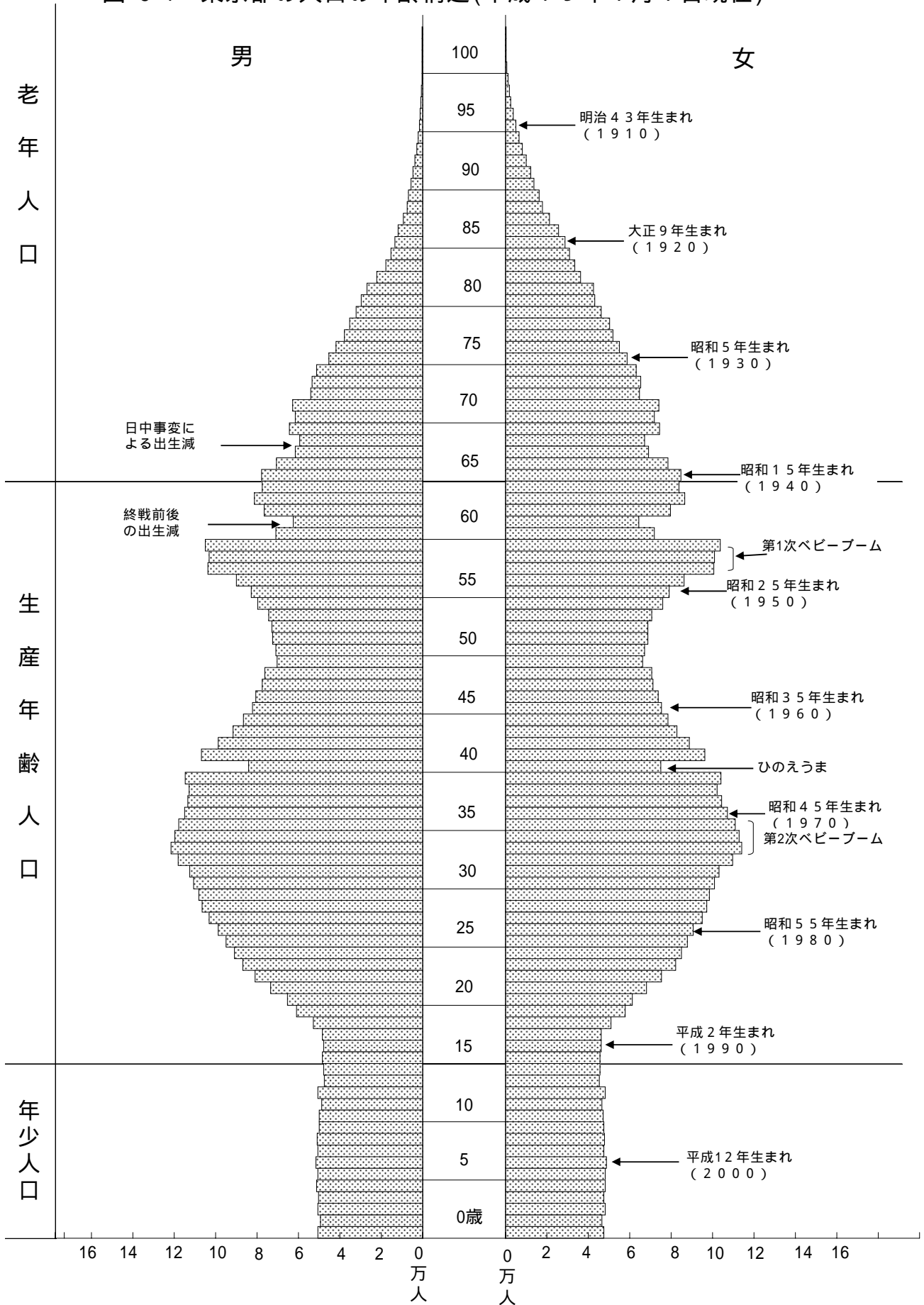


図 6-2 東京都の人口の年齢構造(昭和62年・平成19年)

